

359-24=



1200501411739

359

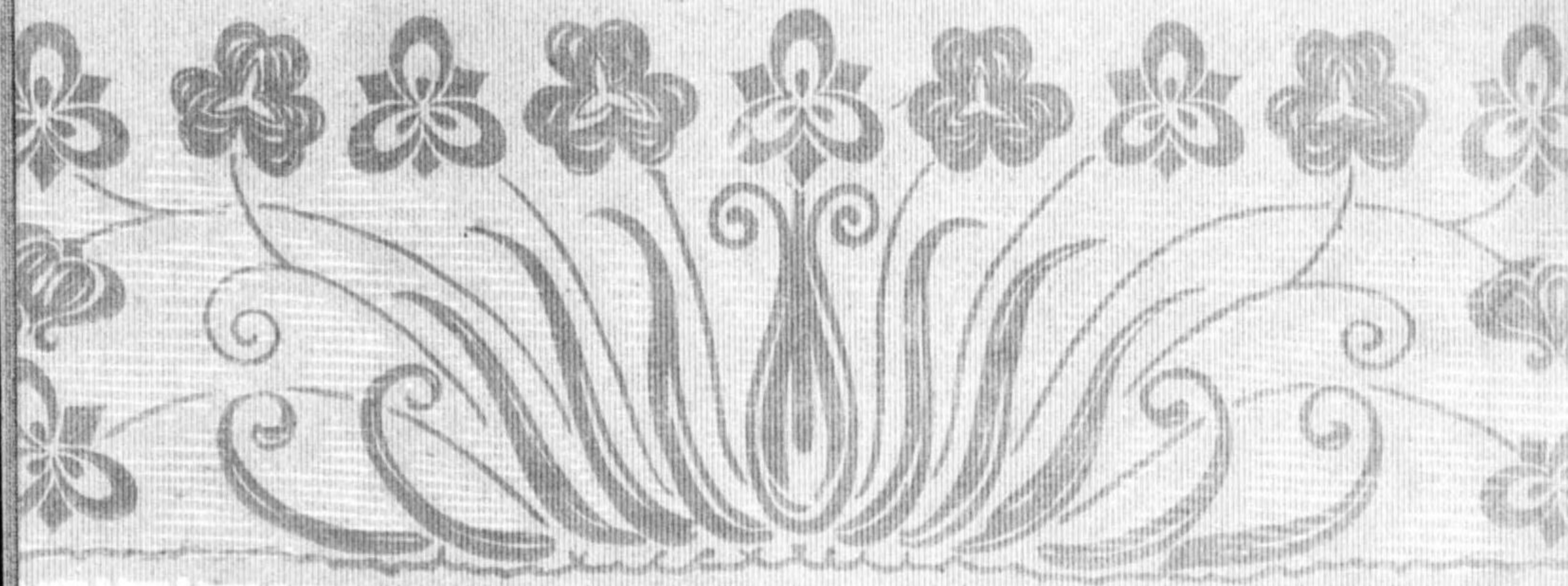
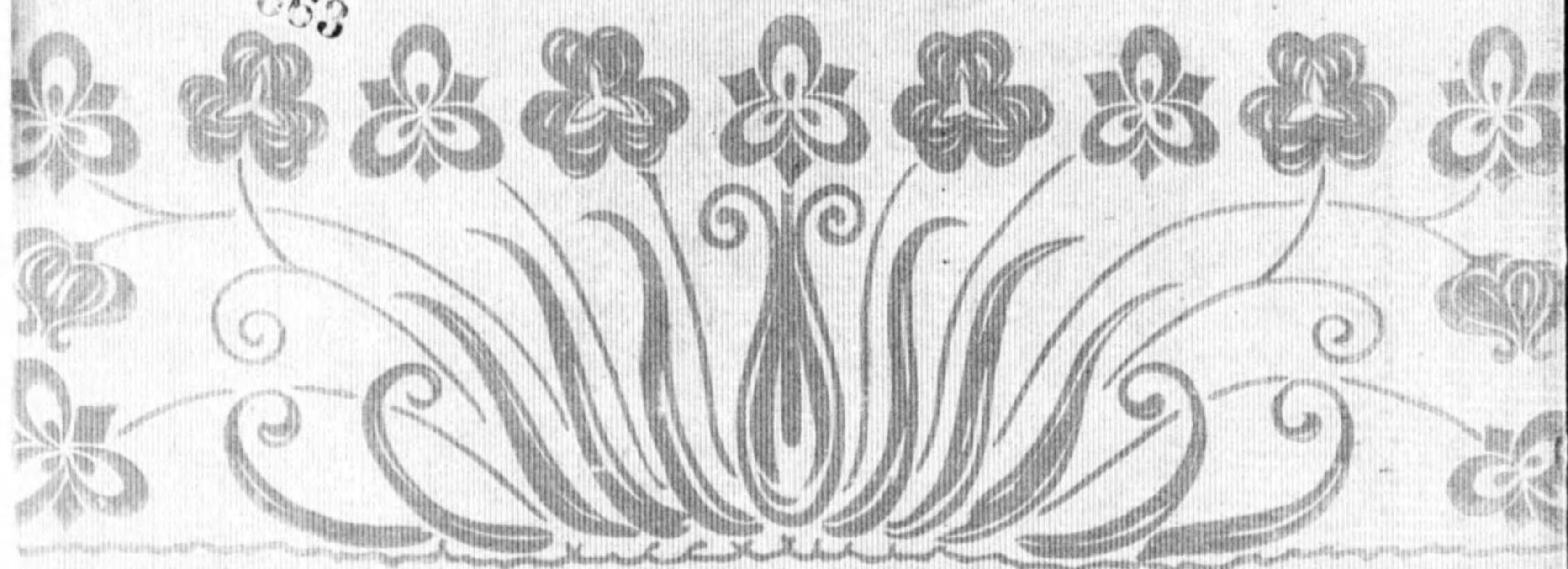
24=

30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4

始



663



訂 修

大日本國語辭典

士博學文

士博學文

治簡井松

年萬田上

著 共

五 卷

[ん - ふ]

京 東

行發房山富



ばの條一(イ)を見よ。(ロ)一語中にあるぶら又はぶら一は、子音リと母音ウの長音とより成る音節を表はす。類、んぶら(順風)ぶら一(人名)の類。
二、歴史的假名遣にては(イ)一(イ)に同じ。(ロ)一(ロ)に同じ。但しぶら一は用ひず。

ふの濁音の假名。
【字】「萬葉假名」夫扶・父・歩・部。驚・霧・矛・服・文・蜂音。又、不・布・府・歴。其の他清音の假名をも用ふ。【平假名】及び【片假名】ぶら・の如く、ぶの清音の假名に濁音符を附したるものを用ふ。古くは濁音符なきもあり。

表はす音。夫扶・父・歩・部は吳音ア、驚・霧は漢音ア、不は漢音ブ、服は吳音フ、文は漢音ン、蜂は此れ等を假りてアの音を表はせり。又、蜂の音はアと聞かゆれば蜂音をアにあてたり。現今ぶの表はす音は
一、表音的假名遣にては(イ)子音リと母音ウとより成る音節。子音リの説明ははの條にあり。(ロ)一語中にあるぶら又はぶら一は子音リと母音ウの長音とより成る音節を表はす。「ぶらたん」(人名)の如し。

二、歴史的假名遣にては(イ)一(イ)に同じ。(ロ)一(ロ)に同じ。但しぶら一は用ひず。

ふ生(名) 草木の生ひ繁りたる處。又、物のある處。記「あは布」にはかみら「も」と同、かしの布「よ」によくとつくり「安閑記」竹生「之地」金槐集「旅の空馴れぬはにふの夜の床、倦ひしきまに」も時雨かな」田中。

ふ節(名) 「ふし節」の略。物の編目。むすびめ。記「大君のみこのしは垣や布」じまり、しまりもとほし切

れむしは垣、焼けむしは垣一萬里まごもの布のみに近くあはなへば、沖つまのなげきをぞする。
ふ火(名) ひ(火)に同じ。古一東國の方言。萬「いはるには蘆布」たけども住みよけを、筑紫に至りてこふしけもはもなして雑れるもの。ぶち。まだら。「虎班」班入り。
ふ封(名) 封地。食封。封戸。續紀「益封各一百戸」宇津保國封たまはりなどをこそは、御位久しく物すべく侍るなれ。
ふ府(名) つかさ。役所。「近衛府」太宰府。著聞其の比までは、府の役ぢからなしとて、嫌はざりけれども、獨志開府治事。支那にて、州の上にある行政上の區劃。時代によりて變化あり。唐書地理志「州府三百五十八」地方行政區劃の。府知事の管轄區域。回縣と共に、郡及び市を以て構成せる最上級の地方自治團體。府縣制(六十三府の名譽職事會議)。轉じて、物事の多く集まること。又、其所、禮記曲禮「在府曰府、在軍曰庫」左傳昭公五年「不爲怨府」劉勰新論「將收情欲先致五關五關者情慾之路、嗜好之府也」同「順者福之門、逆者禍之府」隋書地理志「京師百府、四海歸向」。

ふ符(名) (支那にて)古昔、竹又は木などに、しるすにすべき文字を書き、兩分して、一半を留め置き、一半を與へて他日の信とせしもの。符符。符節。史記「剖符封功臣」主務又は監督官職より、其の下級官職に下せる公文。又、その文體の名。公式令符符、署名准辨官上者、其上官向以下皆爲符符、署名准辨官唐六典「凡上之所以下、其制有六、曰中符符、尚書省下、於州州下、於縣縣下、於

郷、皆曰符符。まもりふだ。おふだ。護符。十調「龍の聲とどむる符を作りて、これを封じてけり」太平記「陰陽師に門を封せさせよとて、符を書かせて門に押せば」。

ふ俘(名) とりこ。いけどり。俘虜。春秋「齊人來歸齊俘」。轉じて、腹の運歩色葉「勝」書經「心爲五臟之主、腹爲六腑之總」思慮分別。了簡考。醒睡笑「勝の抜けたる仁に、銀を振舞ひける、赤きを見て、是は生れつきか、また朱にて塗られたるものかと問ふ」。

ふにおり 落附了解す。理解す。兵の義。將棋の駒の一。ただ前「一格づつ進むことを得るもの。なりては金將の能力を有す。兵。醒睡笑「玉ゆゑに歩をも馬をもたておきて、かくきやうの外に使ふ金銀」。

賦(名) 賦は、歩の極めて大切なること。わりのこと。くばること。みつきもの。賈賦。書經「賈賦、惟上上錯」。支那上代の詩の六義の一。心に感じたるま、比興を用ひて敘述する體。りくぎ(六義)を見よ。運歩色葉「風賦、比興、雅頌、毛詩、時有六義焉。一日風、二曰賦、文體明辨、按詩有六義其二曰賦、所謂賦者、陳其事而直言之也」。本文「賦」の體。句末に韻をふむもの。本朝文粹「免裳賦并序」菅原文章「味且求衣賦一首」班固文選「賦者古詩之流也」。

扶(名) 親王家の職員。家令に次ぎて事を行ふもの。掌ること家令に同じ。家令職員令扶一人。類、
ふ敷(名) 小麦粉のふすま。洗粉に用ふ。食品の一種。小麦粉に水を混ぜてよく捏ね、煉り上げて、水に注ぎ、澱粉質を去りて殘留せるものに糖米粉と小麦粉とを混和して製す。生熟、熟の種あり。類、茶葉、茶葉、
ふ巫(名) かんなき。論語子而「人而無恆、不可以作巫醫」禮記「王前巫而後巫」。

ふ負(名) 官吏の考課にて、贖銅などの罪名を負ふこと。稱。考課令私罪、計贖銅一斤爲一負、公罪、二斤爲一負、各十負爲一殿。負數。又、負號。
ふ婦(名) 婚姻の當事者たる女子。つま。よめ。妻。和泉式部集「安藝守の婦、子らみたる九日の日」易經上九「包蒙吉、納婦吉」女子。をんな。刑法「有夫之婦」説文「婦、服也、从女持、帶、婦也、一曰、對姑曰婦」。

ふ計(名) 死亡の通知。計音。左傳「諸侯同盟、則赴以名」柳宗元文「福丁舅氏、滄海沂、捧計哀號、旬旬増悲」赴。
ふ傳(名) 守役。かしづき。漢書「賢師良傅、教以忠孝之道」東宮の職員。皇太子を輔導するを掌るもの。東宮職員令「傳一人」榮華本傳「傳には、閑院の右のおほい殿なり給ひぬ」。

ふ傳(名) 朝廷より死者に給ひぬるもの。又、其の財貨。令義解「治部省中書卿傳、公羊傳、車馬曰傳、貨財曰傳」。

ふ譜(名) 物の系統・順序等を立

を打ち消すに用ふる語。「無作法」「無遠慮」。

ふかでん (佛 Fricandean) (名) 西洋料理の一種。牛豚などの肉を細かく刻み、雞卵をまぜ、これを水に含ませたる食料包と一所に組上にて細かに叩き、適宜に蕃椒粉を加へ、米利堅粉を振りかけ、楕圓形にまらめ、雞卵の黄味を塗り、更に米利堅粉をまぶし、ばた又はへつとにて揚げたるもの。

ふーてんりう (英 Foucault's Current) (名) 電流。金属體中に於て磁力線の變化あるとき、及び磁力線のある場に於て金属體を速に動かすとき、此の金属體中に生ずる電流の稱。

ふと 呎 (英 Foot) (名) 英國に於ける長さの單位。十二いんち。即ち我が國の約一〇六尺に相當す。

ふど 布度 (英 Pound) (名) 露西亞國の量の名。四十りう。即ち、我が國の四貫三百六十八匁一分三厘三毛に當たる。

ふとほる (英 Foot-ball) (名) 遊戯の一種。一區劃を競技場とし、其の兩邊に勝負門を立て、競技者は二組に分かれて革製の球を蹴り、門より出だしたる方を勝ちとす。ふとほる。

ふとほら 呎磅 (英 Foot-pound) (名) 仕事量の単位。一磅の重さのものを一呎の高さに舉ぐるに要する仕事量を一呎磅といふ。呎呎度。又は商人が、營業上の取引のために集會する所。

ふあひ 蕪穢 雜草の生ひ茂りて、土地の荒れたること。史記「墳墓蕪穢而不修分、魂無歸而不食」漢書「田被南山蕪穢不治」。

でて記し、又は種類によりて類集したるもの。「硯譜」「墨譜」「印譜」系圖。史記「楚穆王滅之、無譜」音樂の調子の符號。源實季の譜二卷「同符」ここに傳はりたるふといふ物の限り、あまねく見あはせて。

ふ浮(名) うくこと。醒睡笑「賦にては浮・中・沈をも辨ぜず」。

ふ秤(名) 植木科植物の小穂に於て各花を抱ける内外二片の鱗片状の小苞。

ふ一(名) 數。ふた(二)に同じ。

ふ一(名) 數。ふた(二)に同じ。

ふ一(名) 數。ふた(二)に同じ。

ぶあひびやう 無愛敬 愛敬のなきこと。

ぶあひびやう 無愛想 愛想のなきこと。

ぶあひびやう 斑光 (英: Eucalypt) (名) [天]太陽面の黒点の近傍に於て、著しき光輝ある線状の部分の稱。

ぶあひびやう (名) 特選の悪しきこと。東海道名所記「いかに無相言(ゆ)いな茶やのおかちや」

ぶあひびやう 不潔 (名) 催物の人気を呼び得ること。興行物などの不入ること。若提樹之辨「開帳がぶあひびやう、難儀にも及ぶならば、又思案もあるべけれど」

ぶあひびやう 分厚 (名) 分この厚きこと。厚みの多きこと。

ぶあひびやう 不倫 (名) 不和。三河物語「御姫も二人出来させ給へども、御ふあひびやうにも有りつるか」若風俗「運添ふ汝が母と不合ひなるによつて」

ぶあひびやう 歩合 (名) 歩合 [数] 甲の乙の數に對する比の値を小數にて表はしたるもの。例へば5の10に對する歩合は5:100即ち0.05なる類。 [名] ある金額と他の金額との割合。 [名] 取引の額に應じたる割合の手數料又は報酬。利益に相應したる割合の報酬。

ぶあひびやう 歩合算 (名) 歩合 [数] 歩合元高・歩合高・合計高・殘高等に關する計算法。

ぶあひびやう 歩合高 (名) 歩合元高に歩合を乗じたる積。例へば歩合0.2、元高50なれば、10は歩合高なり。

ぶあひびやう 歩合率 (名) 歩合 [数] ぶあ

ぶあひびやう (名) 夫(う)又はあらし(こ)。人夫とあらしのこと。甲陽軍鑑「大方村一つに風呂一つ候うて、既に夫あらしこまでも風呂浴ふくすべを存じ候」

ぶあひびやう 不安 (名) 安心ならざること。安らかならざること。又、そのさま。運歩色業「不安」

ぶあひびやう 不安定 (名) 安定せざることを。心配。氣がかり。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

ぶあひびやう 不安定 (名) 不安定なことを。おちつかざることを。

なり」狂言方によりて演ぜらるる一種の曲。狂言と能楽との中間にある單純なる祝賀の演伎。ふうりうだな(風流棚)の略。東鑑(三)文(三)於御所和歌御會中、僧正被(風流)脚(同)三十九日三賜風流正被(風流)脚(同)三十九日三賜所。たか(鷹)を見よ。い(い)かのぼり(風)をい、西國の方言。雪見探梅などの風流は、多く寒きよりいふ。

ふうりうかき 風流傘 (名) 傘針の形の類にて、賀茂の祭禮などの行装に用ふるもの。

ふうりうくるま 風流車 (名) 賀茂の祭禮などに、種種に裝飾して行装に列ぬる車。百練抄(七)久賀賀茂祭、左中將隆長朝臣乘風流車往(反)大路。

ふうりうじん 風流人 (名) 風流を好む人。風流なる人。抱持御本地風流人のなすわざ、咎めはあらじ。蘇軾詩、江左風流人、醉中亦求名。

ふうりうたな 風流棚 (名) 風流の裝飾を施したる棚。ふうりう。東鑑(三)三十九日三賜風流正被(風流)脚(同)三十九日三賜所。たか(鷹)を見よ。い(い)かのぼり(風)をい、西國の方言。

ふうりうひは (名) 風流の速度を測る器。ふうりうひは。東鑑(三)三十九日三賜風流正被(風流)脚(同)三十九日三賜所。たか(鷹)を見よ。い(い)かのぼり(風)をい、西國の方言。

ふうりうもの 風流物 (名) 祭禮の時、花籠などさまさまのものを造りて負戴しゆくもの。

ふうりうの 風力 (名) 吹く風の力。風の強弱の度。方干詩、湖邊風力歸帆上、嶺頂雲根在雪中。

ふうりうめい 風力計 (名) 風流の速度を測る器。ふうりうめい。東鑑(三)三十九日三賜風流正被(風流)脚(同)三十九日三賜所。たか(鷹)を見よ。い(い)かのぼり(風)をい、西國の方言。

ふうりん 風鈴 (名) 鐘に似て形小さく、内に舌を垂れたる金屬製の具。其の舌に短冊などをつけて簾などに懸け置

き、風に揺れて音を發せしむ。風鈴。小町踊、涼風の文字を見あぐる風鈴哉。ふうりん。風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりんうめもぎ (名) 植(植)冬青の科、冬青屬の落葉小喬木。高さ十尺内外に達す。葉は先の尖れる長橢圓形にして、粗鋸齒を有し、葉柄を具へて互生す。花は單性、小形の雌花は白色を呈し、一箇或は二三箇づつ、葉腋より出でたる細き花軸に著く。果實は核果にして、下垂し小形なり。我が國山地に自生す。

ふうりんさい 風輪菜 (名) 佛語。風輪の際。此の世界の最下底の處。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりんさう 風輪草 (名) 植(植)結縷科、山小葉屬の一年生或は二年生草本。高さ四尺内外に達す。葉は卵狀披針形、鋸齒を有し、無柄、互生す。花は大形、紫色、青色或は白色の鐘狀花冠を有し、總狀花序に排列す。歐羅巴洲の原産。觀賞用として栽培せらる。

ふうりんば 風鈴蕎麥 (名) 此の蕎麥を行銷する者が、其の荷に風鈴を著け、歩むにつれて風鈴の音を發するよりいふ、しほく(草枕)に同じ。狂詩謔解

ふうりんそばり 風鈴蕎麥切 (名) 前條に同じ。衣食住記、實曆の頃、風鈴蕎麥切り品出する。

ふうりんつじ 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。



(うさろうふ)

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

ふうりん 風輪 (名) 佛語。世界地層の最下底。其の下は空輪即ち虚空とす。しゆみせん(須彌山)を見よ。盛衰記(十四)風輪の上に水輪あり。俱舍論(二)先於最下依止虚空有二風輪生、廣無數、厚十六億餘那由、運步色葉、風輪。風。風の神。國姓爺後日合戰、風輪・火輪溢れ出で、唐船斷今國姓爺、ふうりんの精風おだやかに。

御心地不覺になりて、二月八日らうせ給ひぬ。油断して失策すること。不注意なること。そぞろに過ちを犯すこと。十訓抄に「不覺ならんもの」を著して、能なき輩をも憐みはくむべし。延喜平家三末の「穴賢、見たがて不覺す」。保元平家三末の「未練なること。保元平家三末の「不覺も紛れぬやうに」。諸事最期の有様、剛なりとも申し、又不覺なりとも申す。四思はず知らずなること。われ知らずなること。そぞろなること。諸事再び龍顔にあひ奉り、不覺の涙に袖をしぼる。

ふかひ かく 不覺 不覺をとる。不覺の恥ぢをかく。十訓抄も「不覺かきたらば、申し行ひたる人を射んがためなり」。甲陽軍鑑「弓矢を取って不覺をかき、武田の家を取つること」。ふかひ かく 不覺 不覺をとる。不覺の恥ぢをかく。十訓抄も「不覺かきたらば、申し行ひたる人を射んがためなり」。甲陽軍鑑「弓矢を取って不覺をかき、武田の家を取つること」。

ふかひ 不學 學ばざること。學問なきこと。無學。天竺記「博學の人の植うる種は芽を出だし、不學の人の植うる種は土の底に朽果て」。ふかひ 不學 學ばざること。學問なきこと。無學。天竺記「博學の人の植うる種は芽を出だし、不學の人の植うる種は土の底に朽果て」。

ふかひ 舞閣 (名) 舞人の舞を演ずる建物。平家三末「歌堂・舞閣の基、魚龍・舞馬の放物」。陳子良詩「綺雲臨舞閣、舞閣舞閣」。ふかひ 舞閣 (名) 舞人の舞を演ずる建物。平家三末「歌堂・舞閣の基、魚龍・舞馬の放物」。陳子良詩「綺雲臨舞閣、舞閣舞閣」。

ふかひ 舞鶴 (名) 兩翼をひろげて舞ふ鳥。まひつる。梁簡文帝詩「游魚舞池、舞鶴散階」。李白詩「始向蓬萊看舞鶴、還過陸石聽新鶯」。ふかひ 舞鶴 (名) 兩翼をひろげて舞ふ鳥。まひつる。梁簡文帝詩「游魚舞池、舞鶴散階」。李白詩「始向蓬萊看舞鶴、還過陸石聽新鶯」。

著聞舞樂、御贈物、勳賞などありて、盛衰記世の「俗人舞樂を奏しけるに、胡德樂といふ樂に、河南浦の庖丁を舞ひすましたり」。ふかひ 武學 (名) 兵學に同じ。

ふかひ 不覺悟 不覺悟(不覺)に同じ。三河物語「生けておくらば、又もや不覺悟可有に、腹を切らせ申せ」。織田當麻呂はきき今日を暮らして、かか不覺悟の親相應の借銭わたり。ふかひ 不覺悟 不覺悟(不覺)に同じ。三河物語「生けておくらば、又もや不覺悟可有に、腹を切らせ申せ」。織田當麻呂はきき今日を暮らして、かか不覺悟の親相應の借銭わたり。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器師 (名) 深草土器を製造する人。傾城活童子「これは深草土器師」。ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 山城國深草の里にて製せし土焼の織人形。高き曲尺五寸餘、胡粉・丹・綠青などにて彩りて雅致あり。ふかひ 深草土器 (名) 山城國深草の里にて製せし土焼の織人形。高き曲尺五寸餘、胡粉・丹・綠青などにて彩りて雅致あり。

浄土宗西山派の四流の一。山城國紀伊郡深草村真宗院の開祖、圓空を流祖とするもの。浄土傳燈系譜下西山圓空上人一流、謂ふ深草流。ふかひ 深草流 (名) 佛語。

ふかひ 深草流 (名) 佛語。浄土宗西山派の四流の一。山城國紀伊郡深草村真宗院の開祖、圓空を流祖とするもの。浄土傳燈系譜下西山圓空上人一流、謂ふ深草流。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

ふかひ 深草土器 (名) 關扇の一種。角はりたる形をなし、表に紙の紋形を當てて顔料を繪吹にて吹きかけたる繪を作り、柄は別に漆塗りの木を嵌め、其の端に房をつけたるもの。もと山城國深草村にて製したるより名づけしならん。

吹弱 (自動) 吹く勢が弱くなる。

吹雪 (自動) 吹きよむる嵐の庭の木の本に、一むら白く花を散らす。

不義 (名) 義理をかくこと。

不規 (名) 借金を返済せざること。

不器量 (名) 器量なきこと。

吹分 (他動) 風吹きて、こなたかなたに吹きわたる。

吹分 (名) 風吹きて、こなたかなたに吹きわたる。

吹分 (名) 風吹きて、こなたかなたに吹きわたる。

吹井戸 (名) 水のふき出づる井戸。

吹繪 (名) 種類に造りたる切抜きの型を地紙の上にて、これに墨汁又は繪の具を含ませたる筆を吹きか

に用ふる布のき。

斧斤 (名) 斧をの。まさかり。

附近 (名) 近きまはり。

賦金 (名) 賦課せらるる金。

分金 (名) 歩金 (名) 一分金と二分金との稱。

不吟味 (名) 吟味せざること。

河豚 (名) 動【ぶ】(河豚)に同じ。

不吟味 (名) 吟味せざること。

不吟味 (名) 吟味せざること。

不吟味 (名) 吟味せざること。

「豆をはやせませう、福は内、福は内、鬼は外、鬼は外」

幅 (名) 幅はば。

復 (名) 復はば。

腹 (名) 腹はば。

吹 (他動) 口より氣を出だす。

息と共に送り出だす。

不空 (名) 不空観音。

不空 (名) 不空観音。

不空 (名) 不空観音。

不空 (名) 不空観音。

不空 (名) 不空観音。

不空 (名) 不空観音。

不空 (名) 不空観音。

不空 (名) 不空観音。

不空 (名) 不空観音。

吹雪 (自動) 吹きよむる嵐の庭の木の本に、一むら白く花を散らす。...

吹雪 (自動) 吹きよむる嵐の庭の木の本に、一むら白く花を散らす。...

吹雪 (自動) 吹きよむる嵐の庭の木の本に、一むら白く花を散らす。...

吹雪 (自動) 吹きよむる嵐の庭の木の本に、一むら白く花を散らす。...



ふくしやうてん 福生天 (名) 佛語。第四天中の九天の一。しぜんてん (四禪天) を見よ。

ふくしやうりやう 福聖靈 (名) 幸福なる人の精霊。孟蘭盆會に靈祭せられたる死人の幸福なる人。俳諧古遺賢福聖霊子の家多し身は一。

ふくしやき 複寫器 (名) 書狀・送狀・計算書などの寫しを取るために用ひらるる器械。

ふくしやし 複寫紙 (名) 複寫用として、其の片面又は両面に、剝離し易き色を塗抹したる薄紙。此の紙の下に白紙を敷き重ね、上よりペン又は硬き鉛筆などでして書いて書畫をかけた後、白紙に寫すことを得。

ふくしやせん 幅射線 (名) 【理】電線の波動により、一點より射出して各方に傳播する電線の線。化学線熱線・普通光線も總て是れなり。

ふくしやへん 幅射熱 (名) 【理】幅射線となりて移動する熱。他物體に吸收せられ、始めて熱となりて物體の温度を高くするもの。熱線。赤外線。

ふくじやへん 複寫版 (英: Photo-graph) (名) かんてんげん(寒天版)に同じ。 經四九、五福。一日、壽一宋史。

ふくじやう 福壽 (名) 幸福にして長命なること。 經四九、五福。一日、壽一宋史。

ふくじやう 福壽 (名) 幸福にして長命なること。 經四九、五福。一日、壽一宋史。 覆審 (名) 再度同一の事件を取り調べること。書經覆審囚證之辭。 覆審 (名) 覆審すること。 覆審 (名) 覆審すること。

ふくじやう 福壽 (名) 幸福にして長命なること。 經四九、五福。一日、壽一宋史。 覆審 (名) 再度同一の事件を取り調べること。書經覆審囚證之辭。 覆審 (名) 覆審すること。 覆審 (名) 覆審すること。

ふくじやう 福壽 (名) 幸福にして長命なること。 經四九、五福。一日、壽一宋史。 覆審 (名) 再度同一の事件を取り調べること。書經覆審囚證之辭。 覆審 (名) 覆審すること。 覆審 (名) 覆審すること。

ふくしやうてん 福生天 (名) 佛語。第四天中の九天の一。しぜんてん (四禪天) を見よ。

ふくしやうりやう 福聖靈 (名) 幸福なる人の精霊。孟蘭盆會に靈祭せられたる死人の幸福なる人。俳諧古遺賢福聖霊子の家多し身は一。

ふくしやき 複寫器 (名) 書狀・送狀・計算書などの寫しを取るために用ひらるる器械。

ふくしやし 複寫紙 (名) 複寫用として、其の片面又は両面に、剝離し易き色を塗抹したる薄紙。此の紙の下に白紙を敷き重ね、上よりペン又は硬き鉛筆などでして書いて書畫をかけた後、白紙に寫すことを得。

ふくしやせん 幅射線 (名) 【理】電線の波動により、一點より射出して各方に傳播する電線の線。化学線熱線・普通光線も總て是れなり。

ふくしやへん 幅射熱 (名) 【理】幅射線となりて移動する熱。他物體に吸收せられ、始めて熱となりて物體の温度を高くするもの。熱線。赤外線。

ふくじやへん 複寫版 (英: Photo-graph) (名) かんてんげん(寒天版)に同じ。 經四九、五福。一日、壽一宋史。

ふくじやう 福壽 (名) 幸福にして長命なること。 經四九、五福。一日、壽一宋史。

ふくじやう 福壽 (名) 幸福にして長命なること。 經四九、五福。一日、壽一宋史。 覆審 (名) 再度同一の事件を取り調べること。書經覆審囚證之辭。 覆審 (名) 覆審すること。 覆審 (名) 覆審すること。

ふくじやう 福壽 (名) 幸福にして長命なること。 經四九、五福。一日、壽一宋史。 覆審 (名) 再度同一の事件を取り調べること。書經覆審囚證之辭。 覆審 (名) 覆審すること。 覆審 (名) 覆審すること。

ふくじやう 福壽 (名) 幸福にして長命なること。 經四九、五福。一日、壽一宋史。 覆審 (名) 再度同一の事件を取り調べること。書經覆審囚證之辭。 覆審 (名) 覆審すること。 覆審 (名) 覆審すること。

ふくしやうてん 福生天 (名) 佛語。第四天中の九天の一。しぜんてん (四禪天) を見よ。

ふくしやうりやう 福聖靈 (名) 幸福なる人の精霊。孟蘭盆會に靈祭せられたる死人の幸福なる人。俳諧古遺賢福聖霊子の家多し身は一。

ふくしやき 複寫器 (名) 書狀・送狀・計算書などの寫しを取るために用ひらるる器械。

ふくしやし 複寫紙 (名) 複寫用として、其の片面又は両面に、剝離し易き色を塗抹したる薄紙。此の紙の下に白紙を敷き重ね、上よりペン又は硬き鉛筆などでして書いて書畫をかけた後、白紙に寫すことを得。

ふくしやせん 幅射線 (名) 【理】電線の波動により、一點より射出して各方に傳播する電線の線。化学線熱線・普通光線も總て是れなり。

ふくしやへん 幅射熱 (名) 【理】幅射線となりて移動する熱。他物體に吸收せられ、始めて熱となりて物體の温度を高くするもの。熱線。赤外線。

ふくじやへん 複寫版 (英: Photo-graph) (名) かんてんげん(寒天版)に同じ。 經四九、五福。一日、壽一宋史。

ふくじやう 福壽 (名) 幸福にして長命なること。 經四九、五福。一日、壽一宋史。



「ふくみぐつわ、紺のたづなを入れてぞ乗ったりける」

ふくみくさ 含聲 (名) ふくみたる如き聲。くもり。小町通「子規花たちばなやふくみ聲」

ふくみんせき 復民籍 (名) 「法」てくせきわいふく(國籍回復) 同。

ふくみ含 銜 (他動) 口の中に物を入れ持つ。ふくみ。平家五木家の人を「利劍をふくみて地に倒れぬ」

ふくみきまり 服務規程 (名) 前條に同じ。府縣制。府縣吏員の服務規程に同じ。

ふくみめ 料理の一種。下文を見よ。料理用語「ふくめの仕様、干鯛をあぶり、板の上にてそと扣き、むしり、振り候うてよし。かます。鮫・鰻引きす。何にても致し候」

ふくみ減 覆減 (名) 干鯛の肉を細かにむしりたるもの。覆減。覆り減ること。覆減減らすこと。

ふくみ覆面 覆面 (名) 面を覆ひかくすこと。又、其の物。豊太閤大阪城中壁書「覆面仕、往來之儀、堅御停止之事」

吉野都女楠、息をかけるも恐れに存じ、皆皆覆面致し、垢離を取り身を清め候」

ふくみ河豚擬 (名) ぶぐとろふくみ河豚擬に同じ。

ふくみ覆問 一旦問答を終へたる訴人・論人を重ねて問答せしむること。東鑑「九十九三於自今以後者證又之外、不可謂進問陳之狀、若令備進條要證文者、遂覆問可令副進證文」

ふくみ福山緋物 (名) 備後國福山市及び其の近在より織り出だす綿布及び緋木綿。即ち、備後綿と備後緋との總稱。福山緋 (名) びん

ふくみ福山縮 (名) びん (名) 備後綿の異稱。

ふくみ福山木綿 (名) 前條に同じ。

ふくみ福裕 有福なること。富裕梅松論「此の所に、名和又太郎と申す福裕の仁候」

ふくみ服用 衣服・車馬などを著又は用ふること。禮記内則「必獻其上下、而后敢服、用其次也」

ふくみ福來病 (名) ふくれやまひ(福來病)に同じ。

ふくみ眼熬 (名) 料理の名。下文を見よ。天正十年安土御殿立「晚御膳中ふくらいり」

ふくみ文庫 書藏 (名) ふみぐら(文庫)に同じ。

ふくみ福樂 (名) 幸福と安樂と。盛衰記「八公、福樂を食だにも門出とて祝ふ事ぞかし」

ふくみ福利 (名) 幸福・利益。後漢書「是使貧人擅無窮之福利、而善士掛不救之罪辜」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふくみ福力 (名) 富みて勢力あること。又、その人。富家。運歩色葉「福力」

ふじまーふしみ

築器具の料とす。我が國、富士山・日光山に自生し、又觀賞用として栽培す。...

一年詰、諸組番共三十人、三年詰、此爲伏見三年番。伏見城代(名) 江戸幕府にて慶長十二年より元和五年まで山城國伏見城に置き、該城を守護せしめたる職。大名を以てこれに補す。...

守・水野市正兩公命を承りて伏見の城を警備す。伏見見寶藏番(名) 江戸幕府の職。留守居の支配に關し、江戸城内に於ける徳川氏累代の寶藏・文書を藏する富士見寶藏の守護を掌りしもの。...

伏見奉行(名) 江戸幕府の遺國奉行の一。山城國伏見にありて其の地の民政を行ひ、宇治・木津の開竝びに木津川の川筋の船舶を管轄し、又京都則奉行と共に近江・丹波兩國にある幕府直轄地の民政を行ひ、其の訴訟をも聽斷するもの。...

ふしみ

ふじみ

ふじむ

官制第三項に府事務官を置くことを得。五倍子蟲(名) 動植物類中、有翅の一種。有翅の雄は體長三厘にて、雌は二厘、頭部廣くして灰藍色、複眼黒く、觸角やや長し。腹部精圓、尾端は細く、幼蟲は口吻長大、體の面に白粉を被り、長き一層に過ぎず。七八月頃、鹽膚木(フナギ)の葉に寄生して蟲癭を作り、それより單仁を製す。...

社司(名) 社務の神職を置く。明治二十七年勅令第二十二號「府社」による。奉射(名) 神事祈禱のため、歩立にて社頭に大射を射ること。四季草祭射下「神事に大射を射るにたいむけ奉るを奉射」といふ。...

不詳(名) さまがなきこと。縁起の悪しきこと。不吉。若開かかると不祥こそありしか。運歩色葉「不祥」易經「入于其宮不覓其妻、不祥也」。不請(名) 心に請ひ望まざること。ふしやう(名) 不請。諸法の常住にして、始めて生ずるにあらざること。...

不精(名) 精を出ださざること。なまげがちなこと。怠りて物事をなげやりにすること。運歩色葉「無性」狂言「狂言」の外ふしやうにござって、使にやれども時を失して呼ぶに、其の時参りたる事もござらぬ。浮世風呂「流板」を砂で磨くが能い、いけ無性な。...

つ。わりつく。詩などを作る。左傳... 「仙人所賦詩人也」... 計(他動)計を告ぐ。計書... 計(名)計を告ぐ。計書... 計(名)計を告ぐ。計書... 計(名)計を告ぐ。計書... 計(名)計を告ぐ。計書...

ぶすぶす 煙(他動) ぶすぶす煙に同じ。... ぶすぶす 煙(名) ぶすぶす煙のこと。... ぶすぶす 煙(名) ぶすぶす煙のこと。... ぶすぶす 煙(名) ぶすぶす煙のこと。... ぶすぶす 煙(名) ぶすぶす煙のこと。... ぶすぶす 煙(名) ぶすぶす煙のこと。... ぶすぶす 煙(名) ぶすぶす煙のこと。... ぶすぶす 煙(名) ぶすぶす煙のこと。... ぶすぶす 煙(名) ぶすぶす煙のこと。... ぶすぶす 煙(名) ぶすぶす煙のこと。...

効もなきことの譬へ。毛吹草、淵に雨。
(藤淵に雨) 前條に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 斑駁 (名) 斑に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

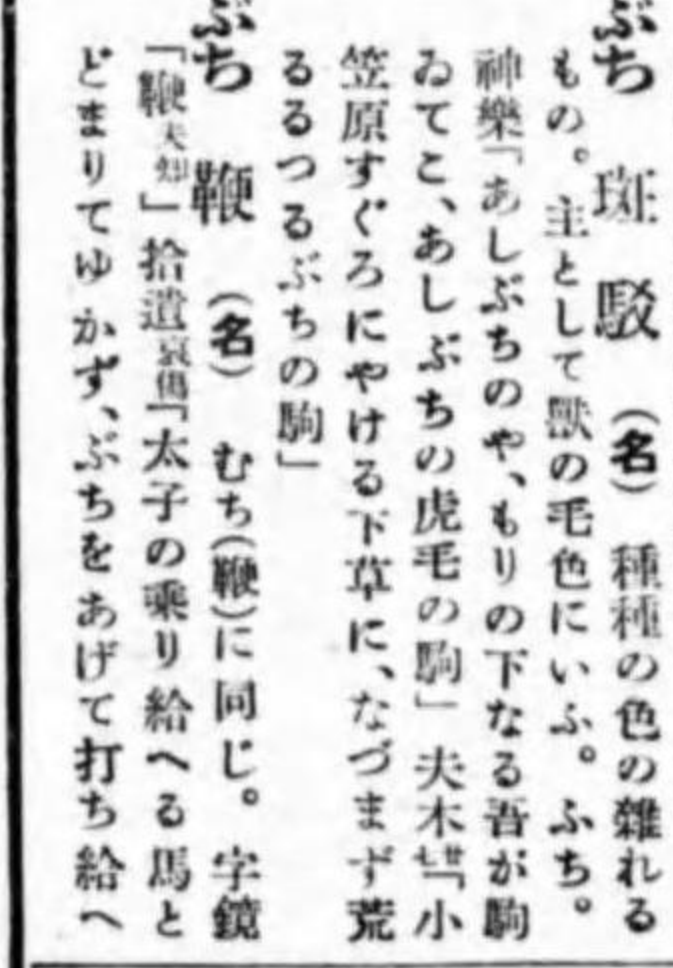
ふち 斑駁 (名) 斑に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 斑駁 (名) 斑に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 布置 位置をくばりおくこと。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 布置 位置をくばりおくこと。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 布置 位置をくばりおくこと。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。



ふち 紫藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 紫藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 紫藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 藤 (名) 藤に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

山野に自生す。どくながしのくさ。にっ
くわうつぎ。はこねうつぎ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 斑駁 (名) 斑に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 斑駁 (名) 斑に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

ふち 斑駁 (名) 斑に同じ。
(藤淵に雨) 淵に雨。淵に雨。淵に雨。

不臣。曾我三浦貞時「不忠申し候はば、當國二所大明神の御罰を蒙り」職國策外狹強秦之威、以內却其主以求割地、大逆不忠、無過此者」

ふちやふちや 不住 住まざること。住居する者のなきこと。諸事、是れは一所不住の沙門にて候」

ふちやふちや 不注意 注意せざること。氣をつけざること。心の行き届かざること。

ふちやふちや 婦女 (名) をみな。女子。婦人。禮記曲禮「公庭不「言婦女」史記項禮「財物無所取、婦女無所事」

ふちやふちや 巫女 (名) みこ。盛衰記「三浦四郎、神明託巫女曰」

ふちやふちや 舞女 (名) 舞ひを舞ふ女。諸舞、我れ古は舞女の譽れ世に勝れ」

ふちやふちや 不直 正直ならざること。太平記「北條時義、政道の爲に怨みなる者は中興剛、内奏さては不直の奉公なり」孟

ふちやふちや 直道不見、我直直之」

ふちやふちや 婦女子 (名) 婦女。婦人。女ども。又、柔弱なる者。つまらぬ者。

ふちやふちや 府備田 (名) 王朝時代、太宰府にて筑前國の粟田を割きて、設け、其の租穀を官に納め、地子を以て府内儲料の不足を補ひ、使の粮并びに水脚の賃及び府家の雑用に供せし田地。三代實錄「十四、置田二百町、名府備田、政、其地子以充府用」

ふちやふちや 植いぬよき (菴蘭) 名) 藤輪 (名) 紋所の名。わ(輪)を見よ。

ふちやふちや 縁烏帽子 (名) へりをとり、其の縁を漆にて塗りたる烏帽子。兜の下にかぶる。

ふちやふちや 藤絨 (名) 鏡の絨しの

一種。うすむらさきをぞし(薄紫絨)と同じ。一説、藤の花房の垂れたる如く、薄紫の蓮澤湯(かき)に絨したるもの。東鑑「同治元年、大須賀太郎道信、藤絨野次郎景員(中)藤鬼」

ふちやふちや 浮沈 浮くことと沈むこと。うきしづみ。又、榮ゆることと衰ふること。盛衰。平相國、便宜候はば、當家の浮沈をも試むべし」曾我、惟高、東宮の浮沈これにあり」世應の變遷に於て行くこと。史記魯侯若專論、魯侯與世浮沈、而取榮名也」

ふちやふちや 布陳 ほん(錦陳)に同じ。

ふちやふちや 夫負 (名) 人夫の受くる賃金。運歩色葉、夫負なり」

ふちやふちや 浮塵子 (名) 動。つんか(浮塵子)の異名。田ぬかが、糠敷の異名。

ふちやふちや 穢 (名) 十二章の一。じふにしやう(十二章)見よ。

ふちやふちや 棄 (他動) すつ(棄)に同じ。大和物語「この水あつ湯にたぎりぬれば、湯ふてつ」四季物語「わらははへの御簾にありしを、かなくぐりふてたりし、葵の枯葉にこそへ」

ふちやふちや 譜圖 (名) ぶけい(譜系)に同じ。兵衛式、凡軍政者、中助譜圖、譜牒之事、先務式部省待返移、然後補之」

ふちやふちや 佛 (名) ぶつ(Buddha、佛陀)の略。仁王經「一切衆生、歸三尊煩惱果報盡者、名爲佛」佛。佛法。

ふちやふちや 打擊撲 (他動) うつ(打)に同じ。浮世風流「ぶつてもはたいても、打に釘といふ奴だから、やるせがねえ」

ふちやふちや 佛意 (名) ほとけのこころ。佛心。庭園往來「昔佛意冥慮、改悔之、外無他儀」諸佛、たままたま佛意に違ひ

ながら」

ふちやふちや 不通 通ぜざること。とほらぬこと。かよはぬこと。交通を絶つこと。縁を切ること。本朝三國誌「兵吉一生が閉不通に差上げ、中身身の代として金二歩五百文、隨に受け取り申す所實正也」

ふちやふちや 普通 あまねく一般に通ずること。よのつね。なみ。通常。一般。保元平治、力も人に勝れ、弓も普通に超えて」

ふちやふちや 佛字 (名) たら。佛閣。寺院。字書節用「佛字」

ふちやふちや 普通郵便 (名) 特別郵便にあらざる郵便。郵便規則「第三普通郵便に依りて到達し得べき時刻より遅れて受取人に到達したる別配達取扱の料金」

ふちやふちや 普通郵便物 (名) 普通郵便の取扱ひによる郵便物。

ふちやふちや 普通裏書 (英。Ordinary endorsement) (名) 商。むきめしきうらちがき(無記名式裏書)に同じ。

ふちやふちや 普通概念 (英。Ordinary concept) (名) 普。いばんがいねん(一般概念)に同じ。

ふちやふちや 普通項 (名) 敷。級数一般の項。例へば、(n+1)の展開式に於ての普通項は、 $\frac{n!}{k!}$ なる類。

ふちやふちや 普通學 (名) 一般國民として必要なる知識を授け、健全なる國民精神を涵養する學問。専門學の對)。

ふちやふちや 普通學務局 (名) 普通學務局

(名) 文部省の一局。師範教育、中學校、小學校、幼稚園、高等女學校、盲啞學校、及び是れ等に準ずべき各種學校に關する事項、通俗教育、教育會館、圖書館、博物館、學館、兒童の就學に關する事項、圖書の編輯、發行及び檢定に關する事項を掌るもの。文部省官制「普通學務局」

ふちやふちや 普通貸付 (名) 商。たんぼがしつけ(擔保貸付)に同じ。

ふちやふちや 普通加入區域 (名) 電話加入區域の一。この地域内に住居する者が電話交換に加入するには、一定の加入料を支拂ふのみにて別に線路新設費及び維持費に相當する料金を要せざるもの。電話規則「電話加入區域は普通加入區域及び特別加入區域の二種とし」

ふちやふちや 普通爲替 (名) 商。なみかはせ(爲替)に同じ。

ふちやふちや 普通感覺 (名) いばんかんかく(一般感覺)に同じ。

ふちやふちや 普通監獄 (名) 特別監獄に對して、普通一般の人を拘禁、留置する監獄の稱。

ふちやふちや 普通義務 (名) 法。國民一般の負擔すべき公法上の義務、即ち、兵役義務、納稅義務の類。一般義務。

ふちやふちや 普通行政官廳 (名) 法。行政官廳の一。其の職權が各縣の行政事務に涉るもの。即ち、各省、府縣廳の類。

ふちやふちや 普通銀行 (名) 銀行の一。一般の銀行法規、即ち銀行條例により設立せられたるもの。

ふちやふちや 普通慣習 (名) 法。慣習の一。普通一般の人民間に行為するもの。特別慣習の對)。

普通官廳 (名) 法。特別官廳に對して、其の權限が各縣の事務に涉る官廳の稱。即ち、各省大臣、府縣知事の類。

ふちやふちや 普通警察 (名) 法。じやうけい(普通警察)に同じ。高等警察の對)

ふちやふちや 普通刑法 (名) 法。特別刑法に對して、普通一般の場合に適用せらるる刑法の稱。一、刑法。舊陸軍刑法、普通刑法第百十四條第百十五條に記載する者」

ふちやふちや 普通教育 (名) 普通學の教育。文官試驗規則「高等普通教育に關し、中學校と同等以上と認むる外國の學校を卒業したる者」

ふちやふちや 普通公理 (名) 數。吾人の經驗によりて眞なることを承認する事項の内、普通の量に關係する命題。次の如し。一、同じ量に等しき量は相等し。二、(I)全量は其の各部分の和に等し。三、等しき量に等しき量を加へば、又は等しき量より等しき量を減じたる、其の和又は差は相等し。四、相等しき量の同分量を加へば、又は不等量より等量を加へるときは、其の和又は差は相等しからずして、其の和又は差は相対し、夫れ夫れ小なる方に減じたる差は、夫れ夫れ小なる方に減じたる和又は減じたる差よりも大なり。

ふちやふちや 普通小切手 (英。Ordinary cheque) (名) 商。横線小切手にあらざる小切手。

ふちやふちや 普通御料 (名) 御料の一。世傳御料にあらざるもの。皇室財

産金第二御料は世傳御料及普通御料とす」

ふちやふちや 普通裁判所 (名) 法。じやうけい(普通)に同じ。普通裁判所(同上)。明治十八年五月布告、第十二號普通司法官廳法、陸軍司法官廳法、交渉の件處分法、常人に於て、陸軍司法官廳若くは海軍司法官廳を犯したる者は普通裁判所に於て之を審判す」

ふちやふちや 普通裁判籍 (英。Ordinary Gerichtsstand) (名) 法。特別裁判籍に對して、法律が特定の裁判所の管轄に屬せしめざる場合の裁判籍の稱。訴訟人の住所によりて定まるを原則とす。民事訴訟法、訴訟人の普通裁判籍は其住所に依りて定まる」

ふちやふちや 普通電報 (名) 電報に用ふる語辭の一。和文電報にては日本語、歐文電報にては羅馬語又は歐洲國語にて其の意味の通解し易きもの。羅馬字にて記載したる日本語、電報新書又は電報新編により記載したる數字の聯集及び商標又は記號として用ひたる文字若しくは數字は普通辭と看做さる。電報規則「電報に用ふる語辭は普通辭、陸軍電報の三種とす」

ふちやふちや 普通囚禁 (名) 法。じやうけい(普通)に同じ。一般囚禁に同じ。例へば、一元二次の普通式は、 $x^2+ax+b=0$ なる類。

ふちやふちや 普通試驗 (名) ぶんくわんぶつ(普通)に同じ。文官試驗規則「文官試驗に出席する者は手數料として、普通試驗に在りては金二圓を納めしむ」

ふちやふちや 普通試験委員 (名) 明治二十年七月二十三日より普通試験を施行し及びこれに關する一切の事務

務を掌らしむるため、中央官廳にては官廳毎に、府縣にては府縣毎に置きたる文官試驗委員。中央官廳にては局長、參事官、書記官又は其の他の高等官より選んで各官廳の長官これを命じ、地方官廳にては各官廳の官吏及び官立、府縣立學校の教官より選んで各官廳の長官これを命じ又は囑託するもの。同二十七年一月一日文官普通試驗委員を改稱せられたり。

ふちやふちや 普通水利組合 (名) 水利組合の一。灌溉、排水に關する事業のため設置するもの。水利組合法「第五、普通水利組合」

ふちやふちや 普通税 (名) 法。いばんせい(一般)に同じ。

ふちやふちや 普通選舉 (名) 法。選舉制度の一。財産の有無に拘らず、他の要件を具ふる一般の人民に選舉權を有せしむるもの。制限選舉の對)

ふちやふちや 普通貸借 (名) 普通に行はるる金貨貸借

ふちやふちや 普通地方官 (名) 法。地方官府の一。一定の地域内に於ける各縣の事務を行ふ權限を有するもの。即ち、府縣知事、郡長の類。

ふちやふちや 普通地方團體 (名) 法。特別地方團體に對して、廣く其の領域内に於ける政治上の一般の目的のために存在する地方團體の稱。即ち、府縣、郡、市、町、村の類。

ふちやふちや 普通鐵道 (名) 鐵道の一。軍用鐵山用、開拓用など特定の目的のために布設したるにあらざるもの。

ふちやふちや 普通取扱郵便 (名) 普通取扱郵便(同上)。

ふちやふちや 普通噸數 (名) 取扱郵便物(同上)。

ふちやふちや 普通噸數 (名) 商。くわふつせきさいとん(貨物積載噸數)に同じ。

普通二次式 (名) 普通水利組

ふちやふちや 普通水利組 (名) 水利組合の一。灌溉、排水に關する事業のため設置するもの。水利組合法「第五、普通水利組合」

ふちやふちや 普通取扱郵便 (名) 普通取扱郵便(同上)。

ふちやふちや 普通噸數 (名) 取扱郵便物(同上)。

ふちやふちや 普通噸數 (名) 商。くわふつせきさいとん(貨物積載噸數)に同じ。

ぶづけい 一物詣 ものまうで(物詣)に同じ。詣り二三日物詣仕り候。狂言六人「佛詣致さうと存ずる」

ぶづけら 一拂曉 (名) 夜のひきあけ。あかつき。しらしらあけ。味爽。運歩色葉拂曉(フ)。

ぶづけら 一佛教 (名) 印度のまかだ國の人。釋迦牟尼(淨飯王の子、悉達太子)を教祖としたる一種の宗教。主として亞細亞の東部に行はる。其の流派甚だ多し。ほとけの教。佛法。伊呂波字類「佛法」。附書「末法」已後、衆生愚鈍、無復佛教」。

ぶづけら 一佛教家 (名) 佛教を研究する人。佛教を信仰する人。

ぶづける (他動) うちつく。なげつく。

ぶづけん 一佛眼 (名) 佛の知見すること。太平記十七、僧體に恥ぢ佛見に憚りて、黙止候事こそ口惜しく覺え候へ」。

ぶづけん 一物件 (名) もの。品もの。

ぶづけん 一物權 (英 Real right, 獨 Schenkrecht, Dingliches Recht) (名) [法] 財産權の一。直接に物の上に行はれ、且つ一般の人に對抗し得るもの。占有權。所有權。地上權。永小作權。地役權。留置權。先取特權。質權及び抵當權の九種に分かつ。民法第二物權」。

ぶづけん 一佛眼 (名) 佛語。佛の佛法實相を照らす眼。最明寺殿百人上藤と忍辱・柔和の佛眼。目づけんせん(佛眼尊)の略。

ぶづけんしやうけん 一物權證券 (獨 Sachenrechtlichen Papier) (名) [法] 特定物を代表し、其の證券の處分が特定物の處分たる效力ある證券。即ち貨物引換證。倉庫證券。船荷證券の類。

ぶづけんせん 一佛眼尊 (名) 佛語。

大日如來の變化にて、其の像は身色月の暉の如く、兩眼に微笑を帯び、二手を胸に當て、大白蓮の中に住す。

ぶづけんぼう 一佛眼法 (名) 佛語。密教の修法の一。佛眼尊を本尊として息災のために修するもの。東寺百合古文書「禁裏に境を立てて、佛眼法を行はせ給ふ」(名) [動] 鱈の幼魚。一二寸位の頃の稱。

ぶづけり 一佛語 (名) 佛蘭西國の言語。

ぶづけり 一物故 (名) (物)は物(夜の古字)の轉訛。故はふるくなる義。一説、物は勿故は事、死者は最早此の世に事なき義。人の死ぬること。紀略「昔三年、入唐大使唐書流物、故於他郷」史記「呂漢士卒物故亦數萬」。

ぶづけり 一佛骨 (名) 佛の骨。佛の遺骨(佛の遺骸)を指す。三才男、二手は珠數、口には佛語「淨住子、若違佛語、必墮惡道」佛教にていふ語。佛典に用ふる言語。

ぶづけり 一佛工 (名) ぶつし(佛師)に同じ。

ぶづけり 一佛國 (名) 佛のみにくた。極樂淨土。五人女、一念に佛國を願ひける志し」。

ぶづけり 一佛骨 (名) 佛の舍利。太平記「佛骨の教を傳へて、佛骨の貴き事を説く」法苑珠林「佛骨即舍利也」。

ぶづけり 一佛打 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶづけり 一佛打 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶづけり 一佛打 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶづけり 一佛打 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶづけり 一佛打 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶづけり 一佛打 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶづけり 一佛打 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶづけり 一佛打 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打込 (他動) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

達す。葉は平滑、鮮紅色を呈し、卵形にして鋸歯を具へ、互生す。花は長き花梗を有し、紅色の離瓣花冠と長き雄蕊とを具ふ。觀賞用として栽培せられ、種種の變種あり。ほさつばな。りうきうむくげ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ぶつこく 一打裂 (名) ぶつこく(佛打)と云ふ。又、其のものと云ふ。

ろぎ(蝶)の異名。秘蔵抄「ふでつむし... 秋も今はと淺茅生にかたおろしなる聲よわるなり。筆つむしは筆を云ふ也」

とびまはる蝶。朗詠、醉林舞蝶、還歸翻於一月之花也

は小さくして卵形を呈し、通常下部の四葉は稍大なり。花は藍青色の筒状花冠を有し、日常開き暮に閉ぢ、形筆に似たり

斗(藤通)相和詔之「萬草中とみかぬ刀」のりとこといひはらへ、あがふ命も誰がためになれ

ふで... 不動 かなじからざること。捕はぬこと。大徳狂言里寸は次第不同

ふで... 不同意 同意せざること。意見を異にする。不賛成。不承知

ふで... 不動産 (獨) Uebertragliches Vermögen (名) 「法」土地又は其の定着物(不動産の對)民法第六十八

ふで... 不動産登記 (名) 登記所の備へ置きて、不動産登記の事項を登記する帳簿。土地登記簿と建物登記簿との二種に分かつ

ふで... 太息 (名) おほいき(大息)に同じ

ふで... 不動尊 (名) ふどうみやう(不動明王)に同じ。枕寺佛は不動尊「源」不動尊の御もとの誓ひ



(りもなふ)

ふなもり 舟盛

高瀬り。舟盛の舟盛。舟盛の舟盛。

ふなやかた 船屋形

二階作あり。三階作あり。下屋形。其の上を三層形、最上を日置形。

ふなやん 船宿

船の運送を業とする家。船の遊船又は釣漁などの求めに應じて貸船を仕立つ家。

ふなり 不形

形意の整ひを失ふこと。格好のわるきこと。

ふなやまひ 船病

船に酔ひて病むこと。ふなやまひ。和名「苦船病」。

ふなよめ 船淀

船の進行を滞らすこと。夫木を渡し守ふなどよめすな織女の舟に逢ふ夜はた今宵のみ。

ふなわたり 船渡

船にて渡ること。又、其の所。源流ふなわたりなど。

ふなわたし 船渡

船にて物を渡すこと。風船四方の船荒かりし浪もしづまりて、船渡しする買物たえずなり。

ふなわたし 船渡

船渡の請負ひを舟渡請負人。船渡の請負ひを舟渡請負人。

ふな 無難

難のなきこと。さほりのなきこと。無難。運歩色葉無難。

ふな 不似合

似合はざること。につかはしからざること。

ふな 不入

其の處に立ち入らざること。入りこまぬこと。「守護不入」。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。



(まねふ)

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふな 舟

舟の舟。舟の舟。舟の舟。

ふみかたむ。ふみしめる 踏縮 (他動) 前條の口...

ふみたてる 踏立 (他動) ふみたつ (踏立)の口語...

ふみはたかり 跋扈 (名) ふみはたか (跋扈)...

ふみひるげづき 文披月 (名) (書を) ひるげづき...

ふみとほる 踏通 (自動) 踏み通る (保利)...

ふみのすけ 典書 (名) (書司)の...

ふみひし 文菱 (名) 紋所の名...

ふみち 踏踏 (自動) またが (踏)に同じ...

て後處分するものとす。類聚三代格五、本
 「應前後司共署不與解由狀事」三代
 實錄十四、攝關勅、在京諸司不與解由狀、
 依「不與」返却者、十日之内便令改辨、
 「ふらふら」(副) 水ぶくれて崩れ易きま
 ま、又、柔かくしまりなきまにふらふら
 「ふらふら」(名) うんきやく(運
 脚)に同じ。



「ふらふら」(名) ぶらりと垂れ下がるま
 まにいふ語。浮世風呂浴が筋骨をほき
 いりと拵折くと足が二本ぶらに爲ったけ
 が「ふらふら」の下の垂れたる鐘(かね)の
 風音を普通とす。「ぶらちやうちん」の
 略。臨時客應接「挑燈用意なくば、箱挑燈
 にもぶらにても、小田原にても、不落
 (ぶら)にても」。

「ふらふら」(名) ぶらりと垂れ下がるま
 まにいふ語。浮世風呂浴が筋骨をほき
 いりと拵折くと足が二本ぶらに爲ったけ
 が「ふらふら」の下の垂れたる鐘(かね)の
 風音を普通とす。「ぶらちやうちん」の
 略。臨時客應接「挑燈用意なくば、箱挑燈
 にもぶらにても、小田原にても、不落
 (ぶら)にても」。

「ふらふら」(名) ぶらりと垂れ下がるま
 まにいふ語。浮世風呂浴が筋骨をほき
 いりと拵折くと足が二本ぶらに爲ったけ
 が「ふらふら」の下の垂れたる鐘(かね)の
 風音を普通とす。「ぶらちやうちん」の
 略。臨時客應接「挑燈用意なくば、箱挑燈
 にもぶらにても、小田原にても、不落
 (ぶら)にても」。

「ふらふら」(名) ぶらりと垂れ下がるま
 まにいふ語。浮世風呂浴が筋骨をほき
 いりと拵折くと足が二本ぶらに爲ったけ
 が「ふらふら」の下の垂れたる鐘(かね)の
 風音を普通とす。「ぶらちやうちん」の
 略。臨時客應接「挑燈用意なくば、箱挑燈
 にもぶらにても、小田原にても、不落
 (ぶら)にても」。

「ふらふら」(名) ぶらりと垂れ下がるま
 まにいふ語。浮世風呂浴が筋骨をほき
 いりと拵折くと足が二本ぶらに爲ったけ
 が「ふらふら」の下の垂れたる鐘(かね)の
 風音を普通とす。「ぶらちやうちん」の
 略。臨時客應接「挑燈用意なくば、箱挑燈
 にもぶらにても、小田原にても、不落
 (ぶら)にても」。

「ふらふら」(名) ぶらりと垂れ下がるま
 まにいふ語。浮世風呂浴が筋骨をほき
 いりと拵折くと足が二本ぶらに爲ったけ
 が「ふらふら」の下の垂れたる鐘(かね)の
 風音を普通とす。「ぶらちやうちん」の
 略。臨時客應接「挑燈用意なくば、箱挑燈
 にもぶらにても、小田原にても、不落
 (ぶら)にても」。

「ふらふら」(名) ぶらりと垂れ下がるま
 まにいふ語。浮世風呂浴が筋骨をほき
 いりと拵折くと足が二本ぶらに爲ったけ
 が「ふらふら」の下の垂れたる鐘(かね)の
 風音を普通とす。「ぶらちやうちん」の
 略。臨時客應接「挑燈用意なくば、箱挑燈
 にもぶらにても、小田原にても、不落
 (ぶら)にても」。

「ふらふら」(名) ぶらりと垂れ下がるま
 まにいふ語。浮世風呂浴が筋骨をほき
 いりと拵折くと足が二本ぶらに爲ったけ
 が「ふらふら」の下の垂れたる鐘(かね)の
 風音を普通とす。「ぶらちやうちん」の
 略。臨時客應接「挑燈用意なくば、箱挑燈
 にもぶらにても、小田原にても、不落
 (ぶら)にても」。

ふるる

らりぶらりと流れて死んだ
ふるる (自動) 降るの活用
ふるる (自動) 降るの活用
ふるる (自動) 降るの活用

ふり

主なるものに A、B、C、D、E、F、G、H 等の
の名を附す
ふり (名) 降ること。又、降り方。
ふり (名) 降ること。又、降り方。

ふりあ

ること。左傳「君子惡將爲子不利」
ふりあ (自動) 刀剣を敷ふに
ふりあ (自動) 刀剣を敷ふに

ふるら

ひ、又、其の場の具合
ふりあふ (自動) 振りで互ひ
ふりあふ (自動) 振りで互ひ

ふりえ

ふりえ (自動) 利益ならざること
ふりえ (自動) 利益ならざること
ふりえ (自動) 利益ならざること

ふりか

ふりかた (名) 持ち扱ひ方
ふりかた (名) 持ち扱ひ方
ふりかた (名) 持ち扱ひ方

ふりか

ふりかへ (自動) 一旦なほりか
ふりかへ (自動) 一旦なほりか
ふりかへ (自動) 一旦なほりか

ふるり

ふるり (自動) 降りて来る
ふるり (自動) 降りて来る
ふるり (自動) 降りて来る

居蘇・白散酒加へて来てたり」忠見集「ふりはへて君がためにと春の野に、つめ

ふりはらぶ 振拂 (他動) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりはる 降晴 (自動) 降りて後は一時降りて直に霽れ上がる。玉葉「ふり晴れて月の影さす庭の雪は、薄きも

ふりふぶく 降吹 (自動) 再雪など降りて、風烈しく吹く。蜻蛉日記「雨風

ふりふもんじ 不立文字 (名) 佛語。禪宗にて、悟道は文字・言句にて傳

ふりふんじのしゅう 不立文字宗 (名) 佛語。禪宗の稱。前條を見よ。妙石

ふりふり 振振 (副) 振りながら。振りながら来るさま。ふらふら。ひら

ふりふり 振振 (副) 振りながら。振りながら来るさま。ふらふら。ひら

ふりふん 浮世風呂。ふりふりする鯉が、一節九文に「怒りて口をきかぬ

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふん 浮世風呂。ふりふりする鯉が、一節九文に「怒りて口をきかぬ

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ち振りみだす。うちみだす。振りみだす。振りみだす。振りみだす。

振りみだす 降亂 (自動) 亂れて降る。烈しく降る。萬三「やつり山こども

振りみだす 降亂 (自動) 亂れて降る。烈しく降る。萬三「やつり山こども

振りみだす 降亂 (自動) 亂れて降る。烈しく降る。萬三「やつり山こども

振りみだす 降亂 (自動) 亂れて降る。烈しく降る。萬三「やつり山こども

振りみだす 降亂 (自動) 亂れて降る。烈しく降る。萬三「やつり山こども

振りみだす 降亂 (自動) 亂れて降る。烈しく降る。萬三「やつり山こども

振りみだす 降亂 (自動) 亂れて降る。烈しく降る。萬三「やつり山こども

の亂れはやみ候まじきなれば、御曹子を

ふりふん 浮世風呂。ふりふりする鯉が、一節九文に「怒りて口をきかぬ

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

の亂れはやみ候まじきなれば、御曹子を

ふりふん 浮世風呂。ふりふりする鯉が、一節九文に「怒りて口をきかぬ

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

の亂れはやみ候まじきなれば、御曹子を

ふりふん 浮世風呂。ふりふりする鯉が、一節九文に「怒りて口をきかぬ

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

の亂れはやみ候まじきなれば、御曹子を

ふりふん 浮世風呂。ふりふりする鯉が、一節九文に「怒りて口をきかぬ

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ふりふり 振振 (名) 振り下す。振り下す。丹波興作「いや、女郎のふり

ぶんらん 一紛紅 入り混るさまに...

ぶんえい 一墳塋 (名) (えい) 塋は...

ぶんえき のうば 一墳墓 (名) 墳墓...

ぶんえん 一墳墳 (名) 墳墳...

ぶんかい 一文雅 (名) 文雅上のみやび...

ぶんかい 一文雅 (名) 文雅上のみやび...

ぶんかい 一文雅 (名) 文雅上のみやび...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...

ぶんかい 一紛紅 (名) 入り混るさまに...



ふんご 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる...



ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる...

ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる...

ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる...

ぶんご 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる...

ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる...

ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる...

ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる... ぶんごう 一文語 (名) 文章上用ふる...

毎分一分乃至五分を隔てて發砲するもの。海軍軍令第三十二號は海軍禮砲令に依り禮砲を受くべき諸官の儀儀に於て本章の規定に依り毎分一分乃至五分を隔てて發すべきものとす。

ぶんしひしよきよく 一文事秘書局 (名) 明治二十三年十二月宮中に置き内廷の文書を管掌せしめたる局。文事秘書官長・文事秘書官・文事秘書官を置く。同十一年一月一日廢せられたり。明治二十三年十二月宮内省達第二十三號文事秘書局官制前文事秘書局。

ぶんしひしよかん 一文事秘書官 (名) 文事秘書局の職員。文事秘書官長の指揮を受け文書を掌理する委任官。明治二十三年十二月宮内省達第二十三號文事秘書局官制前文事秘書官。

ぶんしひしよかんちやう 一文事秘書官長 (名) 文事秘書局の長官。天皇の旨を奉じ、文事に關する内廷の文書を掌掌する委任官。明治二十三年十二月宮内省達第二十三號文事秘書局官制前文事秘書官長。

ぶんしふ 文集 (名) 文章を編集したる書。ぶんじふ。南史崔暹傳崔暹撰「好爲」文章。中興傳「古今善言」二十四篇及文集傳「于世」。

ぶんしふ 文集 (名) 前條に同じ。江談抄「六」に「文集」云々。後撰「文集」云々。漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふ 文集 (名) 前條に同じ。江談抄「六」に「文集」云々。後撰「文集」云々。漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふ 文集 (名) 前條に同じ。江談抄「六」に「文集」云々。後撰「文集」云々。漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふ 文集 (名) 前條に同じ。江談抄「六」に「文集」云々。後撰「文集」云々。漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

ぶんじふのびやうぶ 文集屏風 白氏文集の中に書きたる屏風。榮華華や漢書の御屏風文集。御屏風どもなど、しあつめ給はれば。

五月七日に置き、外務省の所管の下に翻譯・通譯・外交事務・記録・編輯の事務を掌らしたる司。同四年八月十日の官制改正によりて廢せられたり。法令全書第三十七卷「外務省中文書司被置條」。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

ぶんしよんり 文書審理 (名) 「法」しよんり (書面審理) に同じ。

御住所。仙洞。保元院。太上天皇の...

ぶんゆー 二分。努力を分かちて一の...

ぶんらう 一分。努力を分かちて一の...

ぶんらん 二分。努力を分かちて一の...

ぶんり 二分。努力を分かちて一の...

ぶんり 二分。努力を分かちて一の...

ぶんり 二分。努力を分かちて一の...

ぶんり 二分。努力を分かちて一の...

ぶんり 二分。努力を分かちて一の...

に列べられたる二つの代数的乗法又は...

ぶんりやう 一分。努力を分かちて一の...

ぶんりやう 一分。努力を分かちて一の...

ぶんりやう 一分。努力を分かちて一の...

ぶんりやう 一分。努力を分かちて一の...

ぶんりやう 一分。努力を分かちて一の...

ぶんりやう 一分。努力を分かちて一の...

ぶんりやう 一分。努力を分かちて一の...

ぶんりやう 一分。努力を分かちて一の...

法も亦多也。白居易詩。素摩難題分韻...

ぶんれい 二分。努力を分かちて一の...

ぶんれい 二分。努力を分かちて一の...

ぶんれい 二分。努力を分かちて一の...

ぶんれい 二分。努力を分かちて一の...

ぶんれい 二分。努力を分かちて一の...

ぶんれい 二分。努力を分かちて一の...

ぶんれい 二分。努力を分かちて一の...

古は唐物のみを用ふ。其の内茄子を上品...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

音恐らく、音は倍の略字。戸邊、神、綜...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

とことだて。特に、海産の類。うみべ...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ばの條一(イ)にあり。(ロ)一語中に...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

ぶんろくごばん 文祿小判。名。む...

へうが 舊唐書「有司奏、蝕、陰雲不見、百官表賀」

へうがい 電害 降雹によりて蒙る損害

へうかいまじり 描改札 其の文字又は繪などをかき改めたる紙幣。明治十四年十月大藏省達乙第四十號、銀行紙幣製造札描改札處分法の儀

へうがいまげん 電害保険 獨逸(Felvsicherung) 商損害保險の一。耕作物の電害を填補することを目的とするもの

へうかう 標高 平均海面、或ひは此の面に平行する所の諸面より、地面の其の點に至る距離

へうかうしき 標高式 地圖にて地面の高さを表はすに、其の各點の傍に標高をあらわすに記したるもの

へうかく 標客 ちかれを遊治郎。副客

へうがへし 依返 名はらがへし(依返)に同じ。曾我會稽山「兩足宙に依がへし、小脇に抱ひ込み、えいと締めたる大力」

へうかん 剽悍 「へう(剽)は急なる義、件急にして勇猛なること。氣ばやに荒きこと。史記項羽為人、剽悍猾賊」

へうき 表記 表をあらはしかくこと。表面に記載すること

へうさうし 表装 へう(表具)に同じ。(表具師)に同じ

へうさうめん 廟倉院 古昔、大學寮の一院。釋奠の器具并びに孔子の畫像等を蔵する所

へうまへ 廟策 廟堂のはかりこと。廟堂の畫策

へうまじり 表札 標札 門戸などに掲ぐる名札

へうまん 廟算 廟堂の見こみ。廟堂の算定の計畫。孫子算術、兵未戦而廟算勝者、得算多也

へうまん 廟參 ぼさん(墓參)に同じ。曾我八景、婦しや參詣の諸人もなし、この間に廟參

へうし 表紙 標紙 書籍などの表裏に添へて綴る厚紙、又は布などの覆ひ。内記式凡書、神位記三位已上者紙表、雜綺帶、黃楊軸、源鳥玉の軸、の(うし)

へうし 標紙 (名) めじるしにする紙。しるしがみ。ふだのみ

へうし 標示 目標として人に示すこと。民法第三十三條「境界を標示すべき物」

へうし 表示 人の見聞し得べき状態におくこと。外部にあらはすこと。民法第九十條「意思を表示したるとき」民事訴訟法第八十三條「事實の表示」

へうざ 廟議 廟堂の評議。廟堂の議論。朱熹文獻考「廟議亦不盡記」

へうざん 剽輕 輕率にして滑らかなること。氣輕にしておどけたる氣象。東海道名所記「遊女どもの舞ひけるに、鬘金のとびあがりども、これに心をとらされて」

へうざん 描金 (名) 金粉にて蒔繪すること。又其のもの

へうざんたき 剽輕玉 瓢金玉 (名) 剽輕なること。又、その人。一代男「同じ心の瓢金玉」

へうざんめい 剽輕者 (名) へうざんなる人。浮世風呂「名代のへうざん者と呼ばれしかみ様」

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

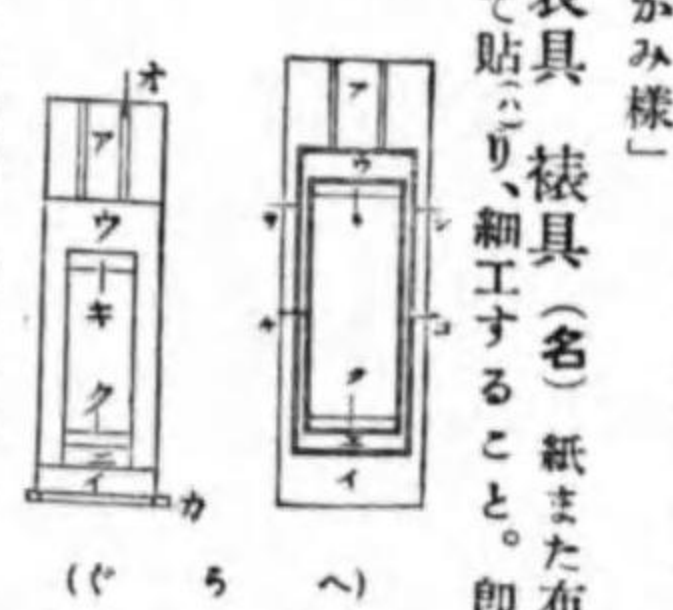
へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど

へうざん 表具 棧具 (名) 紙また布などを糊にて貼り、細工すること。即ち、書畫幅又は屏風。換ひなど



へうひ

へうへ

へうほ

へうめ

へうひ 馬牛犬之有尾類、不可於其方來也、餘無妨。馬の尾の上にある旋毛。

へうへ へうへ(名) (へうへ)ははやて又つむじ風の義。はやて。つむじ。風。旋風。太平記。...

へうほ 立つ如く、他に遷り更はること。易經上。君子豹變、小人革面。

へうめ へうめ(名) しろしの木。目じるしのために立つる木。表木。

へうめん へうめん(名) 表面張力。英 Surface tension。...

へうあけ へうあけ(名) 表裏上。裏むるやうにして其の實は然らざること。...

へうれい へうれい(名) 漂客。おちぶること。漂落。...

へがす へがす(名) 剝。はがす(剝)に同じ。端はおのづから兩端をなせども、...

へうり

へうり

へうり

へうり

へうり へうり(名) 表裏。おもてとうらと。表面と内部と。...

へうりやうかん へうりやうかん(名) 廟陵監。諸陵の諸陵監。...

へうりやうれい へうりやうれい(名) 廟陵令。諸陵の諸陵令。...

へがす へがす(名) 剝。はがす(剝)に同じ。端はおのづから兩端をなせども、...

は中野夏冬共に御部屋衆一人づつ毎夜御そばに紙帳、御部屋衆とは、御一家の内、一段御心安き仁たるべし

くさずみ 部屋住 (名) 嫡子の未だ家督を相續せざる間の身分。獨立せずして親掛りなる身分。又、其の人。さうし、甲陽軍鑑「部屋住の體にては、いかで請取り申すべしや」源氏十二段長生島臺「年十九歳、まだ部屋住にて暮せしが」

くさみ 部屋住御番 (名) 江戸時代、部屋住の身分ながら、技能を以て番衆に擢られたるもの。くさみみ 部屋見舞 (名) 花嫁などを其の居室に訪問すること。又、その時の贈物。傾城島原駐合戦、御部屋衆、小袖の部屋見舞

くさみみ 部屋見舞 (名) 花嫁などを其の居室に訪問すること。又、その時の贈物。傾城島原駐合戦、御部屋衆、小袖の部屋見舞

くさみみ 部屋見舞 (名) 花嫁などを其の居室に訪問すること。又、その時の贈物。傾城島原駐合戦、御部屋衆、小袖の部屋見舞

くさみみ 部屋見舞 (名) 花嫁などを其の居室に訪問すること。又、その時の贈物。傾城島原駐合戦、御部屋衆、小袖の部屋見舞

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

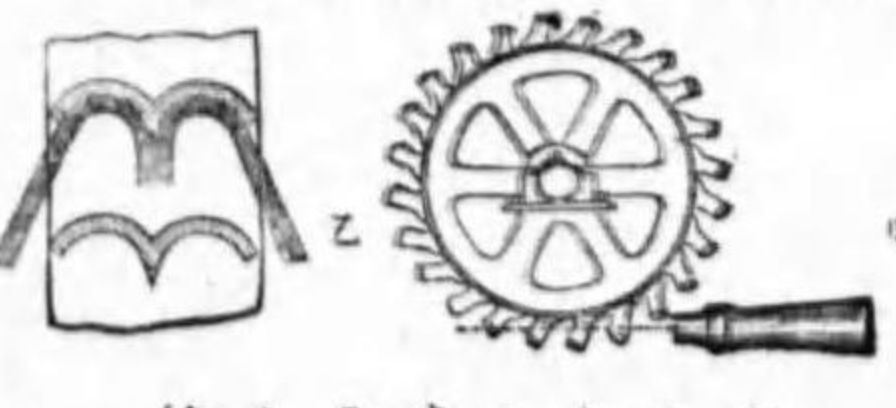
くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる



くさつつかみ 使籠 (名) 塗つたり割がしたりする義。彼れにも此れにも都合よき暖味なる口調を使ふ。雪女五枚羽子板上は立派な口口に、籠をつかうて別れる

へんかーへんき

へんかん 返簡 返翰 (名) 返事
へんかん 返書 (名) 書きもの
へんかん 片簡 (名) 書きもの
へんかん 片簡 (名) 書きもの
へんかん 片簡 (名) 書きもの

へんき

へんきしよぶん 便宜處分 (名)
へんきしよぶん 便宜處分 (名)
へんきしよぶん 便宜處分 (名)
へんきしよぶん 便宜處分 (名)

へんく

へんく 偏見 (名)
へんく 偏見 (名)
へんく 偏見 (名)
へんく 偏見 (名)

へんく

へんく 偏見 (名)
へんく 偏見 (名)
へんく 偏見 (名)
へんく 偏見 (名)

へんけーへんけ

へんけ 偏見 (名)
へんけ 偏見 (名)
へんけ 偏見 (名)
へんけ 偏見 (名)

へんけ

へんけいじま 辨慶草 (名)
へんけいじま 辨慶草 (名)
へんけいじま 辨慶草 (名)
へんけいじま 辨慶草 (名)



(うさいけんべ)

へんけ

へんけいじま 辨慶草 (名)
へんけいじま 辨慶草 (名)
へんけいじま 辨慶草 (名)
へんけいじま 辨慶草 (名)

へんけ

へんけ 偏見 (名)
へんけ 偏見 (名)
へんけ 偏見 (名)
へんけ 偏見 (名)

